



2011～2012 年度
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 10月第1例会 (2011.10.4) No.2915

(1) 「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

(2) 佐藤 紳一会長挨拶

今日は田中堅一郎さんの自宅庭で虫の音をとったCDをバックに例会あいさつを行います。人が秋だと感じる気温は最高気温が22℃だそうです。ちなみに春だと感じる時は最高気温7℃であるそうです。我が家の前庭、松林は虫の合唱なのではなく騒音であります。クモは冬眠の準備に入り巣を張り巡らせて、ベニマシコ、アカゲラ、アオゲラと秋冬に入ると松林に渡ってくる鳥たちです。自転車道脇には褐色のススキが群生し、心を和ませてくれます。洪水や山崩れで荒れた地にも一番に生えてくることから、すくすくと育つ木という意味でススキと名づけられたそうです。尾花とは穂の出たススキのことをいい、またカヤともいい茎や葉は芽茸屋根のカヤになります。

10月2日(日曜)新潟市民茶会が開催されました。17会場39席で、今年度から初心者コーナーとして体験席が設けられました。また障害者席設置会場も用意され盛大に行われました。

AG (ガバナー補佐)

AGは地区ガバナーによって任命され、クラブの効果的な運営と目標達成を支援するAGは4～8クラブを担当します。仕事に関しては来週お話できると思います。

今月は職業奉仕月間です。このあと小田職業奉仕委員長よりお話をいただきます。

(3) 米山奨学生挨拶、奨学金伝達

張 文婷さん

(4) 冨田 正雄君退会挨拶

(5) 委員会報告

・榎熊 紀雄地区大会実行委員長

地区大会が下記のように開催されますので、ご参加の上、ご協力おねがいします。

2012年4月13日(金) 親睦ゴルフコンペ

4月21日(土) RI会長代理歓迎晩餐会

4月22日(日) 本大会

10月11日の例会予定

卓話「コーチをつける社長達」

キリンビール(株)関信越本部長 伊藤 博之氏

(6) 「職業奉仕月間に因む話」

小田等職業奉仕担当理事

○「奉仕」`service`とは

「奉仕の理想」という言葉は「ロータリーの綱領」の中にある“Ideal of Service”が直訳されたことばです。“奉仕”や日本語となった“サービス”という言葉が、英語の service という概念を正確には表現しておりません。ロータリーを貫くもの、それは奉仕 (service) というものの考え方であり、即ち、ロータリーの奉仕とは“人間は自己の為に、色々考えたり、行動をしますが、自分のことだけを考えずに、他人の立場や地域のことを考えて、人や地域のニーズを満たす行為をしよう”ということです。ロータリーではこれを“奉仕”と言っています。『国家、社会のために無償で献身的につくすこと』あるいは、『客のために商品を特に安価で売ること』というふうに一般的に理解されている“奉仕”とは若干意味が異なります。

○シェルドンの職業奉仕理念を1910年に最初の全米ロータリー大会がシカゴで開かれ、全米ロータリークラブ連合会が結成されました。そして、この大会の閉会時に、アーサー・フレデリック・シェルドンは、職業倫理の重要性を強調し、『人間は、英知の光に照らして、正しい行為は報われる。職業は人類の奉仕の科学である。[最もよく仲間に奉仕する者、最も多く報いられる (He profits most who serves his fellows best)]』ということが分かるようになりました』と語りました。そして、この標語は職業奉仕の理念を表すものであります。2004年の規定審議会で「They profit most who serve best」に変わりましたが、日本語訳「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」は変わっておりません。私たちは事業を営むことで利益を得ております。しかし、その利益は、決して自分ひとりで得た利益ではありません。一生懸命働いてくれている従業員、注文通りの品物を納めてくれる下請けの業者や問屋、そういった人々のおかげで自分の企業が利益を得ている。また、自分の店から物を買ってくれるお客さんのおかげでもありますし、その企業はその町の中で普遍的に事業が行えるのは同業者がいるおかげです。従って、自分が恩恵を受けていると考えられる人すべてに、自分が得た profits を適正にシェアをしながら事業を営めば、必ずあなたの事業は発展しますよという職業理論であります。シェルドンの職業奉仕理念をまとめてみると、自らが儲けるために職業に就いているという考えを捨てて、顧客の満足度を最優先しつつ、自らの職業を通じて他人に奉仕をするという考えで事業を営めば、その真摯な態度が顧客の心を捉えます。そうすると、リピーターとして何度も事業所を訪れたり、新規の顧客を紹介してくれるはずで、その結果大きな利潤が得られるとともに、その事業所は継続的に発展していくということになります。

○職業奉仕の実践

ここで大事なことは、ロータリアンは日々の仕事を通して自らの道徳的能力を高め、それを社会に反映させることを責務と考えて努力しているということです。すなわち、ロータリアンは日常の職業活動を通して、自分の職場の従業員、取引先の人達やその関係者、ひいては地域社会の人

達の模範となり、道徳的能力を向上させることに努めているのです。このような仕事の仕方をロータリーでは、職業奉仕と呼んでいます。真のロータリアンであるか否かは、自分自身とその職場が社会の模範となるように努力することを自己の責務と考えているか否かにかかっているということになります。